

メッセージ

“布教なき社会貢献”を

菅波茂さん

●アジア医師連絡協議会代表

★感謝の心

感謝の心で生きる——それが宗教のエッセンスだ、とボクは思っているんですよ。

それはなぜかと言うと、感謝の気持ちを持つことで、人間は自分自身を苦しめている嫉妬心や怒りや憎しみなどの煩惱を取り除くことができるんですね。そうしたことを教えてくれるのが、宗教だからですよ。

じゃ、感謝の心を持つとどうなるか？ 自分は幸せなんだなアーという気持ちが出てくる。そうして、幸福感で心がいっぱいになると、今度は心のなかでふくらんだ感謝の念が外にあふれ出てくるんですね。「人さまのために何かできることはないか。自分にさせてもらえることはないか」って。

ですから、幸せを実感し、毎日感謝の心で生きている人は、他人のためになんらかの行動をおこすはずなんですよ。それも誰かに言われたからではありません。自然に行動となって表われてくる。心の底から湧いてくるものに突き動かされる、と言ったほうが正確でしょうね。ボランティア精神と一緒にですね。



アジア医師連絡協議会

1984年、菅波先生を中心に結成。難民救援、災害救援に医師や看護婦を派遣、医療活動を展開してきた。アジアを中心に18か国の医師らが参加している。本部は岡山市。

☎086(284)7730

★親切運動

そうした感謝の行動をどこで発揮していいばいいのか。身近なところで実践していくことが、大事だと思うんですよ。

仏教では、和顔施とか愛語を説いていますよ。顔の表情ひとつ、相手に投げかける言葉ひとつで、人の心を和ませ生きるエネルギーを与えることができる。

特に、愛語、言葉が重要かもしれません。相手にエネルギーを与えるような言葉を使うように努力する。そして、相手のエネルギーを奪ってしまうような言葉は使わない、ということですよ。

校成会のみなさんは、日常生活のなかで多くの人と会い、会話をされる機会が多いと思いますが、そのときに、「立正校成会の人に会うと元気が出る」といつてもらえるような会員さんになっていただきたいですね。

それから、身近にできることとして、校成会には「一食運動」がありますね。飢えに苦しむ人たちのために一食を抜いて献金する、その趣旨がすばらしい。「布教なき社会貢献」と私は呼んでいるんですがね。

そうした親切運動を社会のなかでどんどん展開していったきたい。